

東北大学減災ポケット「結」プロジェクトが「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2018」の金賞を受賞しました(2018/3/20)

テーマ：災害復興新生研究機構，防災教育，社会貢献

場所：東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ホール（時事通信ビル2F）

URL：<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/social/relation/03/relation0301/> (減災ポケット「結」プロジェクト)
<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/2018/03/award20180328-01.html>

一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会(*1)主催の「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)2018」において、東北大学減災ポケット「結」プロジェクト(*2)が教育機関部門で「金賞」を受賞しました。東北大学の原信義理事(復興新生担当)と保田真理プロジェクト講師(地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門)が授賞式に参加し、名誉ある賞を受賞いたしました。

被災大学の1つである東北大学は、復興支援と災害科学に関する学際研究で得られた知見と知識を活かして、将来の防災・減災を支える人材育成に貢献すべく特別企画を立ち上げました。ここでは、減災意識の大切さを伝えるために考案した減災ポケット結(ハンカチ)を活用した出前授業を柱として位置づけ、知識学習(最新の科学的知見)に体験学習(スタンプラリー)を組合せ、先駆的かつ効果的な教育プログラムを開発し実施しました。

我が国では、防災・減災教育の重要性は認識されていますが、限られた知見に基づく知識提供に留まっており、我々は実践的防災学で得られた科学的知見と教訓を後世に伝えるべく、独創的な教育プログラムを提案しました。将来の災害を正しく理解した上であらゆる災害に備え、いざという時の判断力と行動力の向上を目指しています。

映像・画像やCGを駆使して研究成果や知見をわかりやすく伝え、児童の成長期に合わせた内容で、自然災害メカニズムを正しく伝え理解を促進します。さらに、ゲーム性を持たせた教育ツールを駆使して、最先端の研究内容を小学生でも理解し易くパッケージ化することによって、判断力・行動力を向上させています。次世代に教訓をつなぎ社会全体の対応力向上を目的に、被災地の小学5年生全員を中心に減災ポケットを配布する活動を続け、4年間で15万枚配布しました。小学5年生は、自らの力で考え行動できる年齢であり、下級生に教えることも期待できました。また、出前授業の内容を家庭に持ち帰り、地域での啓発活動を促しています。

子ども達が自ら考え理解を深め、教員も含めた防災教育の普及のため出前授業に取り組みました。東北大学減災教育基金による出前授業に加え、災害科学国際研究所としての取り組みも含め、被災地での学校を中心に海外にも出向いて授業を行っています。現在までに、岩手県・福島県・宮城県をはじめ、和歌山県、大阪府、兵庫県、山口県などの国内と米国ハワイ州、フィリピン、タイ、インドネシアを含む国外へ平成26年度は88校、平成27年度は36校、平成28年度は37校、平成29年度には40校を訪問しました。

(*1) 国土強靱化担当大臣私的諮問機関「ナショナル・レジリエンス懇談会」の結果を踏まえて、「国土強靱化基本計画」が円滑に達成されるよう、産・学・官・民が連携して、レジリエンス立国を構築していくことを目的として設立された協議会

(*2) 今村文彦教授(災害科学国際研究所 所長)・佐藤健教授(災害研 情報管理・社会連携部門)・邑本俊亮教授(災害研 人間・社会対応研究部門)・保田真理プロジェクト講師(災害研 寄附研究部門)・阿部恒之教授(文学研究科 心理学講座)・杉浦元亮教授(加齢医学研究所/災害研 人間・社会対応研究部門)・野内類准教授(学際科学フロンティア研究所/加齢医学研究所)・東北大学総務企画部広報課社会連携推進室



小学校での出前授業の様子



授与式で

文責：今村文彦(災害リスク研究部門、寄附研究部門)、保田真理(寄附研究部門)